

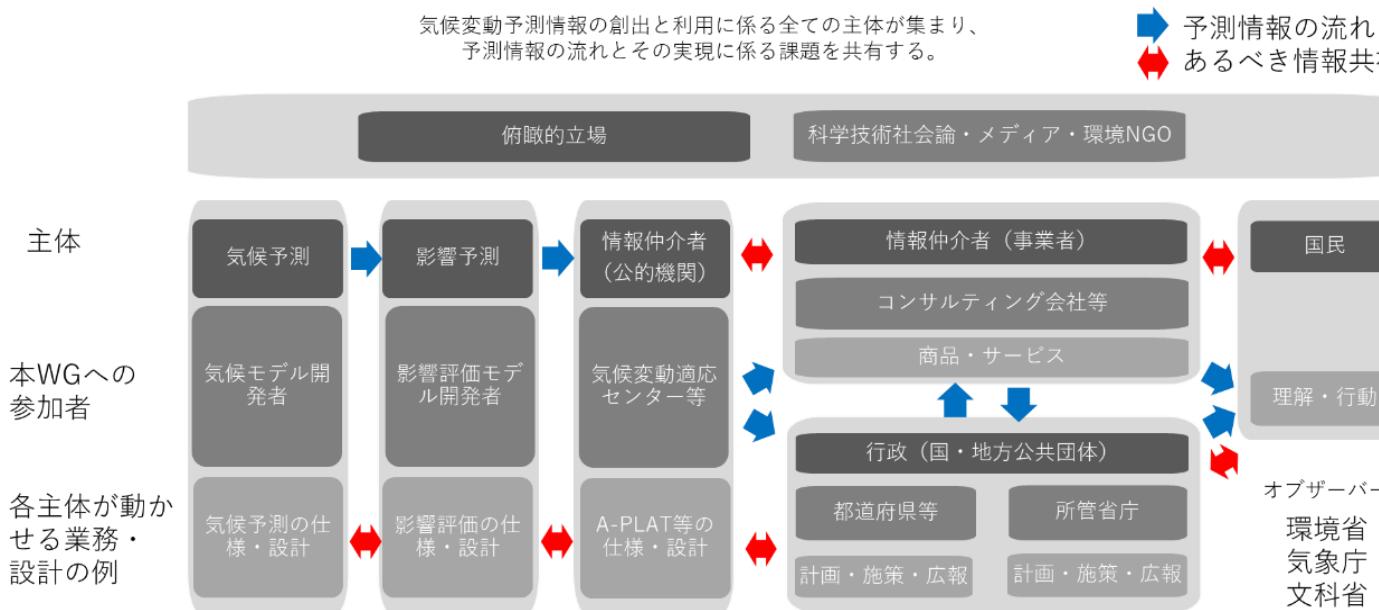
資料4

調査2 回答のまとめ

# 調査 2

- 「第3期の全体像」でも述べた通り、以下の図が、座長・幹事による「気候変動影響の評価と社会の適応策の実施に係る情報の創出と伝達」を示した模式図です。この模式図が妥当とお考えか、自由にご意見をお知らせください。

## 適応策推進のための気候変動予測・影響評価に係る連携WG



## 1) 妥当性（違和感）について

- ご自身のご意見に一番近いと思われるものに○をご記入ください。

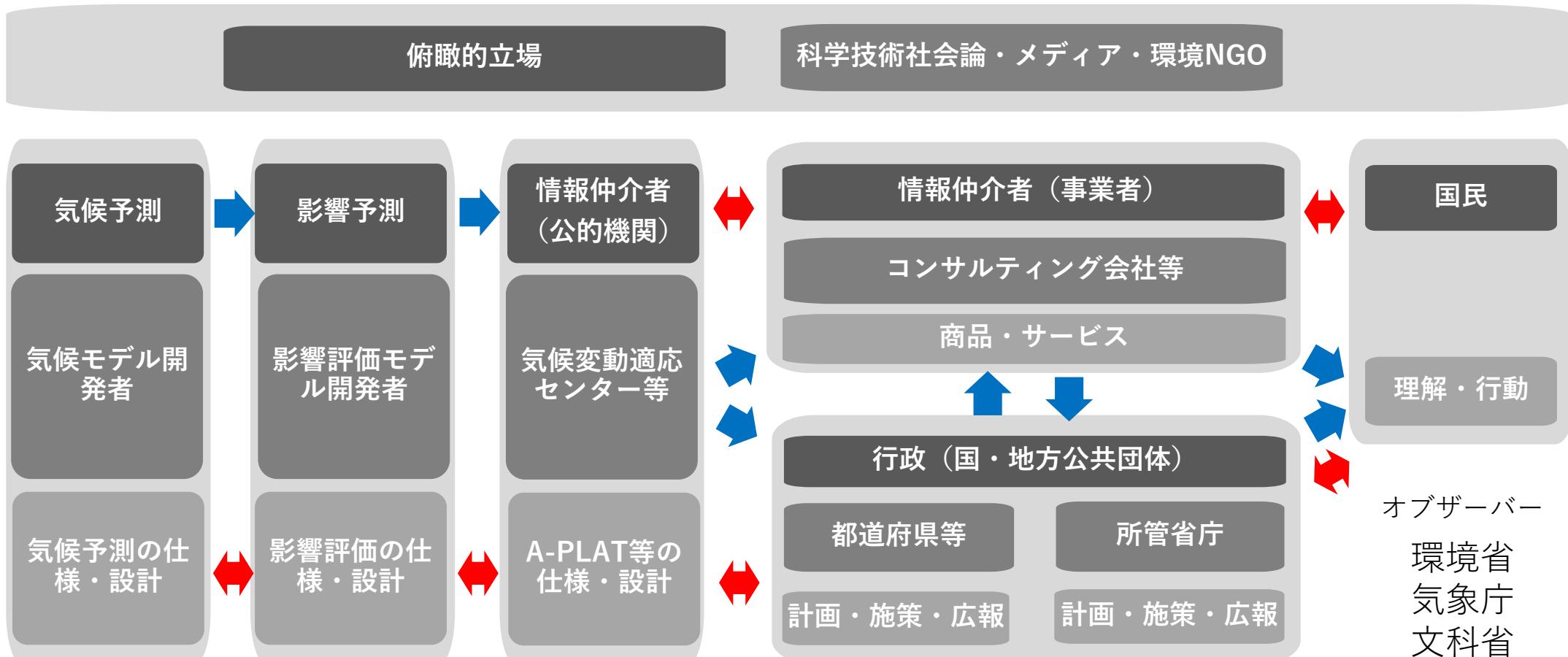
自分の認識ともよく一致する	まずまず妥当だと思う	違和感はあるが、理解できる	大きな違和感がある
2	10	4	0

2) 模式図の良いところ、悪いところについてお尋ねします。

- 以下では、「主体」ごとに回答をまとめた。

# 参考：元図

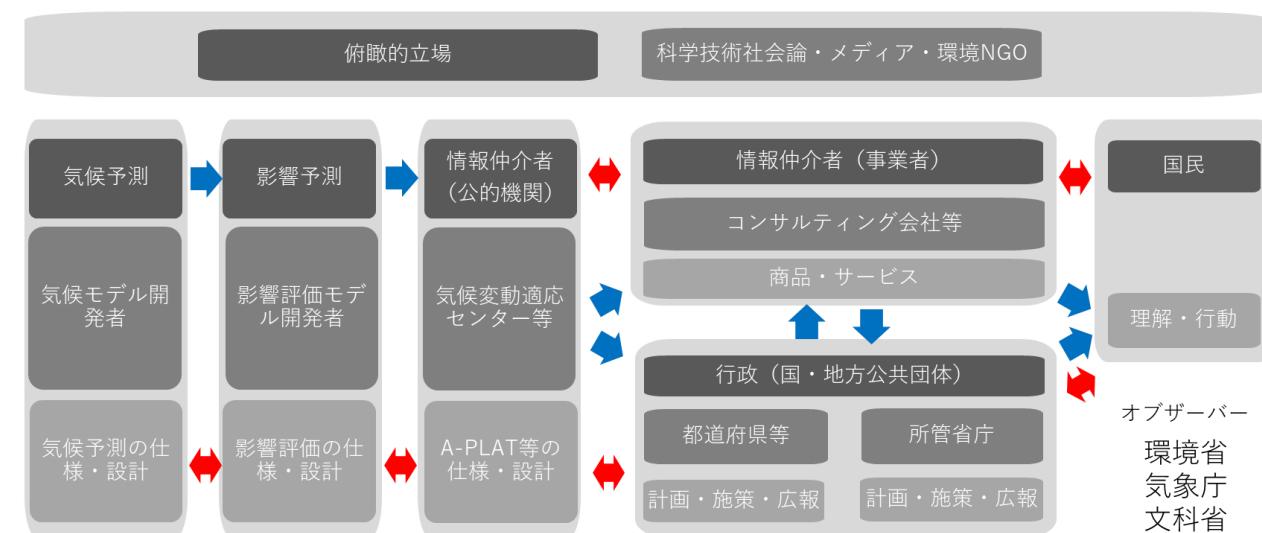
予測情報の流れ  
あるべき情報共有



# 「気候予測」の委員のご意見

- 理想的な情報の流れは元図の通りと思うが、情報の流れを直列的に一元化することは難しい。
- 現状認識と将来的なあるべき姿は別に可視化する必要がある。
- ニーズの共有などは全体で行った方が良い（理想）が、隣のプレイヤーとだけ共有している状態
  - それが現実？
- 俯瞰的立場はコーディネーター・調整役としての役割も期待されている。

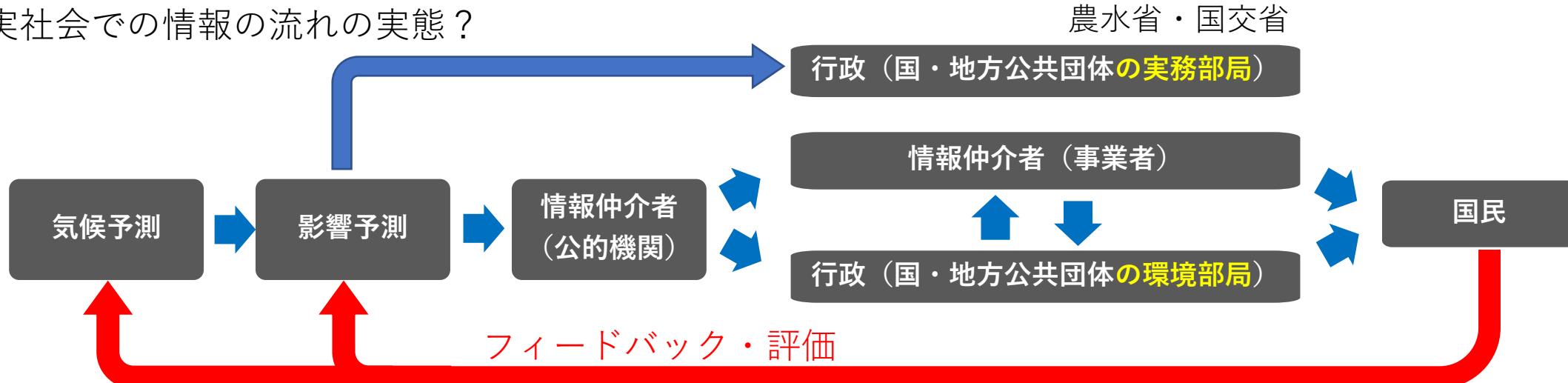
元図は気候予測情報の現状認識？



# 「影響予測」の委員のご意見

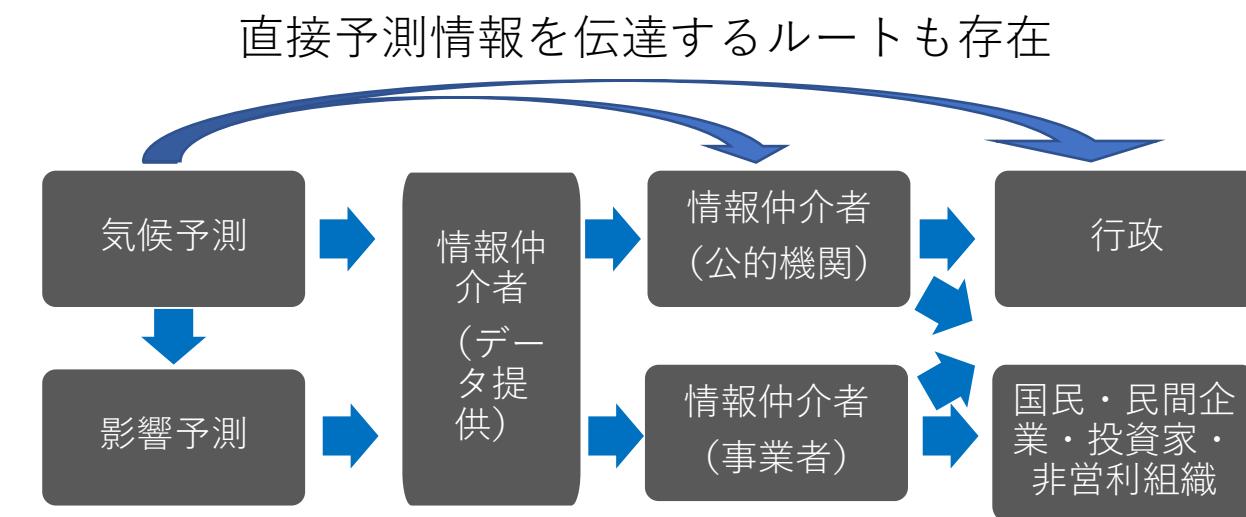
- ・情報仲介者（公的機関）は、国環研系のみがイメージされているが、農業や水災害では直接、行政や実務者に情報提供や働きかけ、協働を行っている。
  - ・本WGへの農水省、国交省のオブザーバ参加が必要。
  - ・影響予測研究者・エンドユーザーの多様性が表現されていない。
  - ・研究が孤立しているものではないことを見やすくする
  - ・事業や国民生活の観点からの、ニーズが気候予測・影響予測の研究構想に反映されうるか。仲介者の存在がダイレクトな評価を阻害しないか？

## 実社会での情報の流れの実態？



## 「情報仲介（公的機関）」の委員のご意見

- ・情報仲介者（公的機関）の先に情報仲介者（事業者）があり、その先に国民が書かれている点（には違和感）。
- ・情報仲介者（事業者）はDIAS等の元データを利用することが多い。
- ・情報仲介者2つを縦に並べ、それぞれが左右（右は行政と国民）と情報共有する方が実感に近い。
- ・地域適応センターは全国の気候変動適応センターと双方向に情報をやり取りする
- ・省庁は「オブザーバ」ではない
  - ・（事務局）あくまでWGにはオブザーバとして参加していただいている。俯瞰的立場も同様。



地域適応センターは  
どこにどのように描くか？

# 「情報仲介（事業者）」の委員のご意見

- 研究者はこれまで通り自由に情報発信し、国民と情報共有する場も重要と思うが、それが模式図からは読み取れない。
- データの根拠や利用者のニーズに関する情報伝達が表現されていない→後ほど「俯瞰」で対応
- 「WGの構成」と「情報の流れ・共有」が一つの図になっている。矢印が分かりにくい。→後ほど「俯瞰」で対応
- 投資家、民間企業やNPO等の非営利組織等の組織団体もこの図に追記した方がよい→「情報仲介（公的機関）」で対応。

気候変動  
関連研究

学術的価値創出

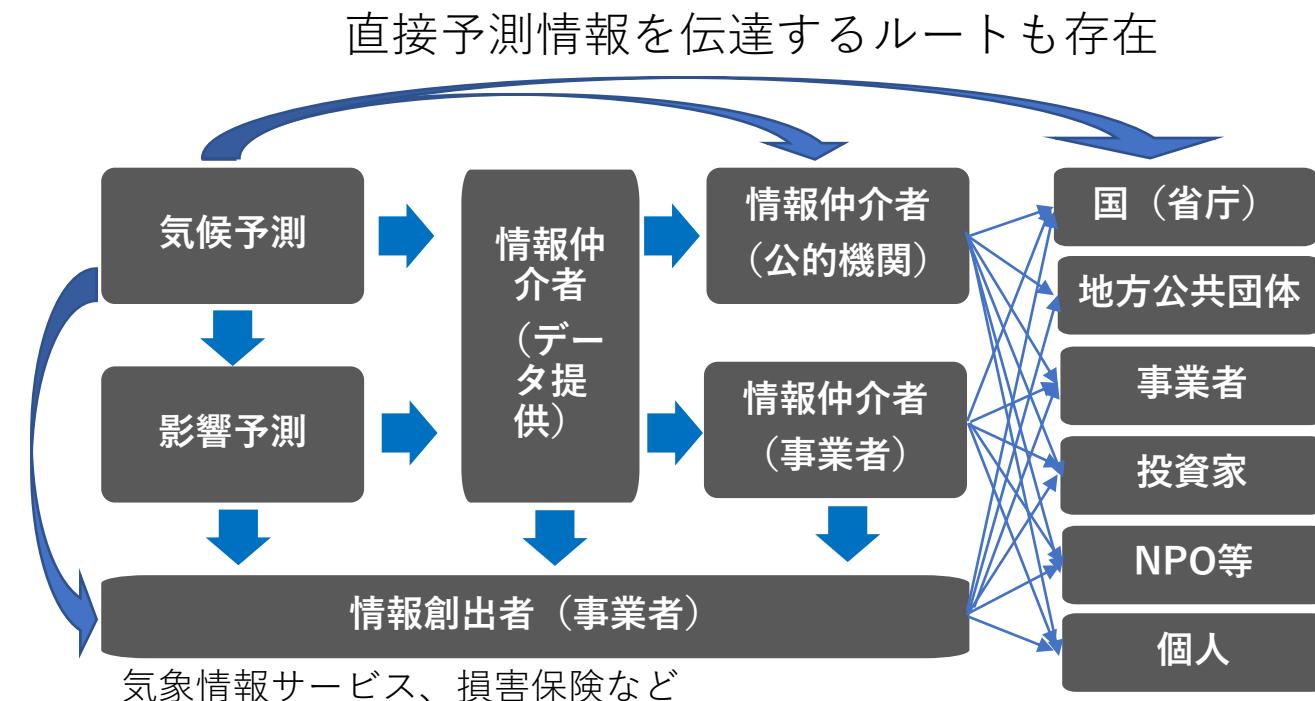
予測情報創出 ← 模式図が  
表すもの

※ これは、WG1 とWG2の間にある、考えないとならない重要な課題 (“サイエンス”と“適応”的関係)

国民・民間企業・投  
資家・非営利組織

# 「地方公共団体」の委員のご意見

- ・情報仲介者が、3列目と4列目にあるが、これを分ける意味が分からぬ。3列目と4列目はマージしても良いのではないか。
  - ・情報仲介者というくくりは適切か？
- ・予測情報の最終的な出口は、適応策の実施者（国、自治体、事業者、国民）であるとすれば、最後の列も、より具体的に、国、自治体、事業者、個人などとしたほうが良い。
- ・環境省・気象庁・文科省は、主体的な立場、原動力として機能する機関だと思う。
- ・隣接する主体とのみ情報共有するよう見えるところ→後ほど「俯瞰」で対応

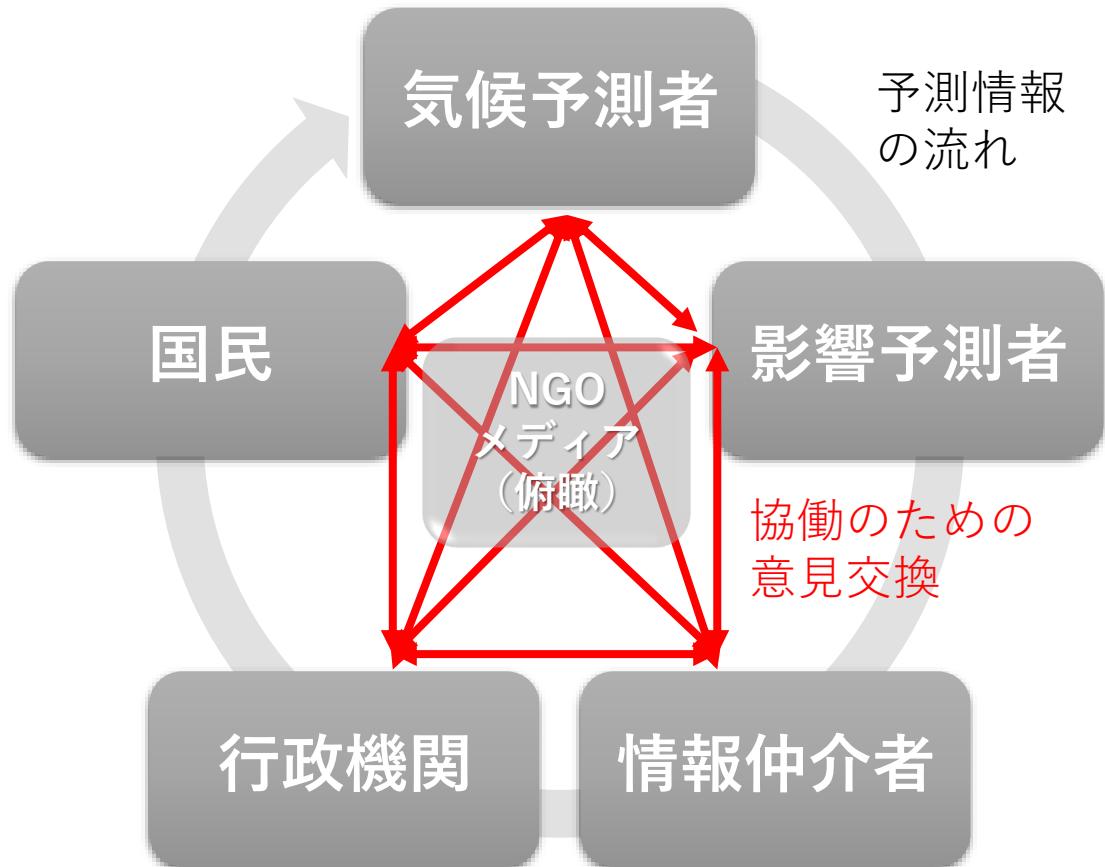


地域適応センターは  
どこにどのように描くか？

## 「俯瞰」の委員のご意見

- 右端の「国民」の役割が「理解・行動」に限定されている
- 計画や施策を行政と住民とが協働して担う住民参加・市民参加の視点も必要か
  - 元図は現状を示していた？
- NGOやメディアは実社会では情報の仲介や世論の喚起を担う。
  - 元図は現実とWGの議論が混在

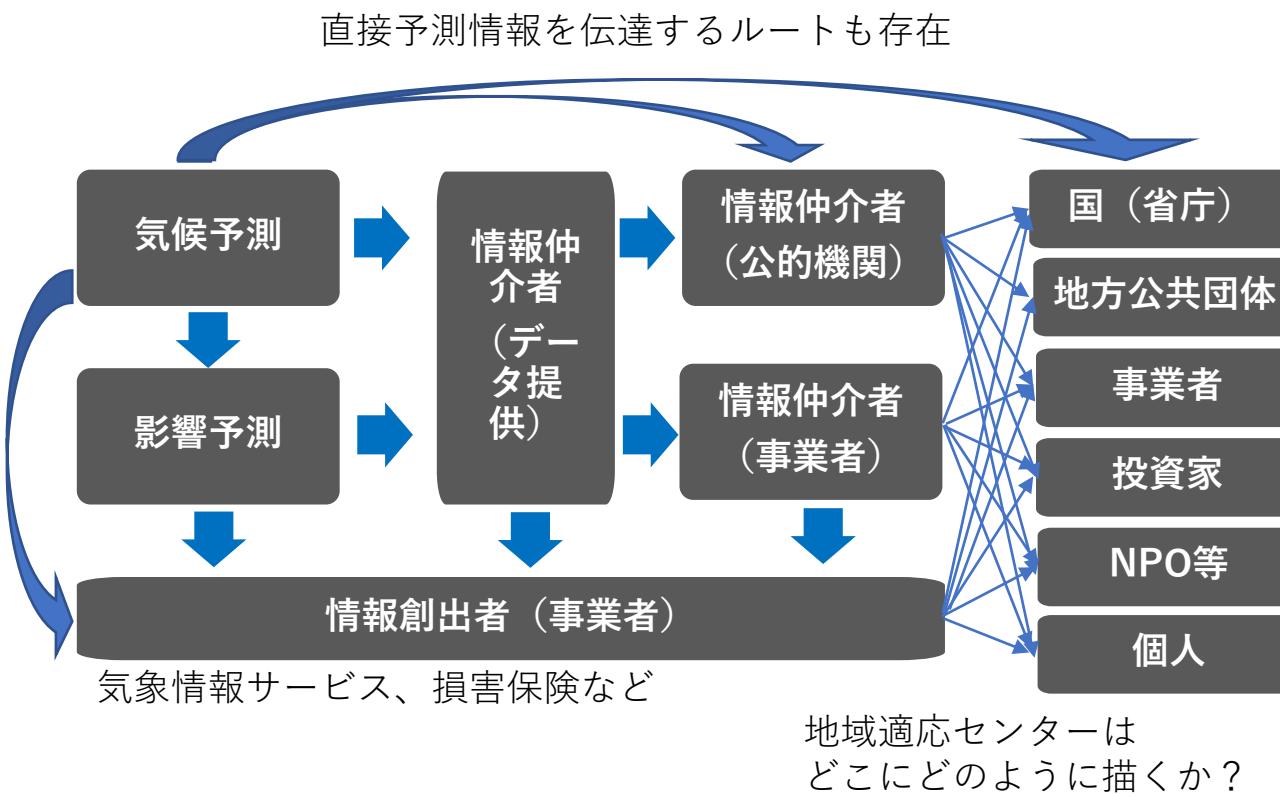
実社会でのるべき情報の流れ（案）



※ 俯瞰的見方の導入がまだ不十分か・・・？

# まとめ

予測情報の創出や伝達の主体や流れの実態は元図より複雑である。



協働のための意見交換を含めたあるべき姿を描く必要がある。

